

2015-10-05

# ふじさわ・九条の会ニュース

NO42



発行人 ふじさわ九条の会 事務局長 島田啓子 0466-34-5843

<http://hws2.spaaqs.ne.jp/fujisawa9jo/>

**憲法違反・立憲主義破壊の戦争法は、廃止まで闘おう！  
9/19の強行採決以降も、市民の抗議行動は続く**



**8月30日の  
12万人の国会包囲行動**

9月19日夜の国会前抗議行動

## 戦争立法の強行採決を許すな 国会前から、全国各地に広がる

9月19日、憲法違反、立憲民主主義破壊の戦争立法は、自民、公明が強行採決しました。これに対し国会前には1万2000名の市民が集まり、夜通し「強行採決反対、憲法守れ、平和を守れ、立憲政治の破壊を許すな」のシュプレヒコールを繰り返しました。当会のメンバーも毎回10名近い会員が国会に出かけ、抗議の行動に加わりました。また、地元藤沢でも、自主的に集まった市民が、ピラ配り、スタンデ

ィング等のアピール行動を展開しました。8月30日の総がかり行動実行委員会が呼びかけた国会包囲行動には、12万人もの市民が国会前を埋め尽くし、この大行動の熱気は、その後国会最終日まで衰える事はありませんでした。

## 選挙で共闘し、戦争立法を廃止に

強行採決されましたが、集会に集まった人々から、国会内で共闘して闘った、民主、共産、維新、社民、生活の党、無派閥クラブの代表に、選挙でも野党が共闘し、次の参議院選挙に勝って戦争法を廃止してほしい、との訴えが強く出されていました。（文責 小林麻須男）

## 戦争立法反対スタンディング 於：藤沢駅サンパール広場



## 国会前行動に参加された 皆さんの感想

### 国会前の行動に

#### 全て参加した藤沢の闘い

島田啓子（事務局長）

安倍政権が5月14日に「戦争法案」を閣議決定したことを受けて、21日から開始された毎週木曜日の戦争法案反対国会前集会には、9月24日まで連続19回すべてに「ふじさわ・九条の会」の黄色いのぼりがはためきました。6月、7月の国会包囲行動、そして国会正門前を埋め尽くした8月30日の12万人の中には藤沢からの仲間60人以上が歴史的ともいえる大きなうねりの中で廃案への思いを新たにしました。

9月8日から強行採決された19日まで、新宿西口、日比谷野外音楽堂、国会正門前に連日押しかけ、国会の中まで届けとばかりあらん限りの声でコールしてきました。国会に行きたくても行けなかった方の想いも込めて・・・

初夏から初秋までのこの4か月、猛暑にも大雨にもめげず、憲法違反、民意違反、手続き違反の戦争法の成立を何としても阻止したいという私たち市民は野党の国会議員と国会の内外で強くつながりました。

日本全国に広がったこの運動は地元藤沢でも「不戦のちかい平和行動」実行委員会がよびかけて“オールふじさわ”と呼んでもよいほどの大きな広がりを見せ、多くの市民とともに7月～9月にかけて6回の街頭宣伝を行いました。強行採決後の9月22日には、緊急抗議行動を行いました。

### 国会前にて

黒川朝子

8月30日に、国会前行動で3歳くらいの男の子を連れ、バギーを押してきたお母さんに会いました。ちょこちょこ歩き回る男の子が心配で、駅まで一緒に歩きました。よく見ると彼女は次の赤ちゃんを宿した妊婦さんでした。

「だれの子どももころさせない」と訴える若いお母さん達の行動に本当に心を打たれました。与謝野晶子が勇気をもって訴えたのと同じ気持ちで、彼女はここへ来たのでしょうか。どこの世界にわが子を戦場に送っても平気な母親がいるのでしょうか。軍需産業で経済を立て直しても、国民は貧困になる一方。安倍政治は許せない。九条をこわして独裁政権を作ろうとしている人々も許せない気持ちで、いっぱいです。

### 国会前集会に参加して

片岡 理恵

国会前に連日集まる人たちは子どもから大人まで個性的で多種多様でした。真剣な眼差しで思い思いのプラカードを掲げ、声を上げる人々の姿は尊厳があり、美しいと思いました。これも民主主義、平和主義が生きているからこそです。国が戦時体制に入れば全体主義に染まり、個はかき消されてしまうことは歴史の教訓です。

今まで私たちが平和に穏やかに暮らすことができたのも日本国憲法のおかげです。今や安倍独裁政権によって瀕死の状態ですが、今度は私たちが不断の努力によって空洞化された憲法を取り戻す番だと思います。

## 国会デモ等に参加して

西川 幾之進

私は、昨今の危機的な政治状況を憂い、本会のHPを探索、入会。デモ初参加は昨年6月27日(金)。以来、一人参加も含め回を重ねる。集会デモは全国各地から、沖縄からの参加者も居たのには驚き。その集大成は、子連れの子供、若い夫婦から高齢者、シールズの学生達、勤め帰りの人達など様々。

「九条壊すな」「自分の子も人の子も殺し、殺されたくない」「教え子を二度と戦場に送るな」等など真摯な言葉が胸を打つ。「諸悪の根源・自民党」も寸鉄人を刺す。集会でのリレートークも極めて印象的。「自民党には天罰」を「公明党には仏罰」を(評論家佐高信)や安倍首相の答弁は「明日の天気はどうですか?」「明後日の天気具合」を説明してくる(福島瑞穂議員)。これは、いわゆるはぐらかしの典型例。また、民主党の岡田代表の真摯な挨拶も好感。一方共産党の志位委員長は論旨明解。耳にストンと響く。

私は、息子や孫が戦争に巻き込まれたいくないとの素朴な発想からが参加動機。この想いは他の人も同じ?この想いが、うねりが一過性で終わるのでなく来るべき国政選挙に連動して次に転化していくことを心から念じたい。また、それを実現していくべく私なりのささやかな実践行動を改めて誓いたい。

一 梅雨晴れや

届け反戦デモの声 一 幾之進

## 赤ちゃんを抱いて

### 国会に来たママを見て

福永洋子

雨の中赤ちゃんを胸にしっかり抱え、ベビーカーを押し国会包囲会場に向かっているお母さんがいた。「大変ですね。」と声を掛けると「1時間と時間を決めてやって来ました。」と・・・"ふるさと"の歌声を聴いた時も涙が止まらなかった。沖縄大学や長崎高教組らの旗がドシャブリに訴えていた。国民無視、国会無視の安倍首相の夢は? 多くの国民の夢は笑顔あふれる世界平和!。殺し殺されて平和な世界が得られるはずがない。多くの人達と力を合わせ悪政打倒!

## 国会正門前の熱気と回想

國枝 健

アベ政権はいますぐヤメロ! いますぐヤメロ! 憲法マモレ! 九条マモレ! アベはヤメロ! シールズのよくとおる若い女性の声に元気をもらいに、7回国会に通った。

国会正門は完全武装した機動隊と装甲車で防



御されていた。その光景に1960年安保反対闘争を思い出した。

19歳の私は「資本論」・ロシア革命「世界をゆるがした10日間」・「レーニンとロシア革命」など解らぬまま読み漁っていた。

6.15 正門を突破した全学連は国会敷地内に座り込んだ。腕力の弱い女性から"ごぼう抜き"は始まり、真っ暗なヒマラヤスギの陰に半裸の女子大生が屈強な警官に非道な限りを尽くされ、警棒で頭を割れるまで撲打されているのを見た。学生の側に立ち、私は夢中でシャッターを切り続けていた。知らぬ間に私は気を失い、撮影済みフィルム10本全て押収されて、カメラは2ヶ月後に鉄の固まりに変わり果て返された。

「歴史の証人」になる夢は消え、体中打撲の痛さだけが残った。以来「官権は絶対信用しない」75歳の今も変わらない。私の将来を決めることになった出来事を頭に刻み込んだ。

今回のこの熱気を持続させ、来年夏の参議院選挙で戦争法案に賛成した議員はだれひとり当選させないようガンバリたい。

それにしてもこの7日間国会前で出合った人にロシア革命時、近衛兵が革命軍の説得で一斉にまわれ右をして、革命軍の先頭に立ち宮殿に突入した事を知る人にめぐり合わなかった。所詮無理だった。藤沢・片瀬から参加したがはぐれた飯田玲子さんとこの件を翌日話し合えたのは嬉しかった。その内、60年安保闘争も知る人もいなくなるのではと、少し寂しい気がした。

## 国会前集会に参加した 創価学会員の発言

—これは当日小林が録音したテープの抜粋です—

みなさんこんばんは。まずは、御礼を申し上げます。7月30日から、私、一人の創価学会員として、この安保法案の白紙撤回を求める請願書の署名活動をさせていただいておりました！おかげさまで、全国からご賛同いただき、9177筆の署名をいただきました！ありがとうございました！8月30日の国会前のデモにおきましては、創価学会のメンバー他に、私の活動に賛同してくださる方々が20人もご助力いただきました、その日一日で、4000筆も集まったんです！

私はね、今日、申し上げたい！私の両親は創価学会員です。その流れもありまして、私は生まれた時から創価学会員でした。こんなことをね、みなさんの前で、「私は創価学会員です」なんて、言うことありませんよ、普通は。なんでこういうことを言わなくちゃいけなくなったんですか！私はね、公明党を応援していました。公明党というのはね、本来、平和の党で、人間の命を守る、戦争は絶対反対だって、そういう仏法の根幹の命をもって、公明党が誕生したんじゃないですか！しかし、今の公明党はなんなんだ！私たち学会員は、騙されたのか！

私達創価学会員の切なる想い、それは、だれも殺さない、だれも殺させないということです。その為に戦争法案を阻止する為に連帯します。

(文責小林)

## 民主主義ってなんだ？

米山 亮

夕闇の国会前、安保法制に反対する学生達の団体シールズのコールが鳴り響く「Tell me what democracy looks like.」(民主主義ってどんな感じ?)、それに応えて群衆がこう返す「This is what democracy looks like.」(民主主義ってこれじゃないの)。他にも従来とは違ったリズムで次々とコールが繰り出され、コールは深夜まで続く、それがここ数週間の国会前の光景だった。

その学生達の運動の影響は安保法制採決の最終段階でも野党の結束と廃案への粘りにも見え

たように思う。採決間近の国会前で「野党はがんばれ、野党はがんばれ」のコールは野党を最後まで励ましたことだろう。

ただ、この学生達に民主主義を背負わすような期待は甚だ迷惑だと思う。多分はっきりと「あなた方がやって下さい。」と喝を入れられることだろう。

## 岩手でも、生きています

### 一関市に於ける戦争立法反対運動

横山 照

横山さんは元ふじさわ・九条の会会員でしたが岩手県に移住されても現地で活動しておられます。以下は、現地からの投稿です。



6月8日、岩手県一関市の民主団体、労組等の有志が集まり「ストップ戦争法両盤地区実行委員会」を結成しました。私は、一関九条の会として実行委員会に参加しています。委員会は、18日から毎週木曜日に市内でピースパレードを行うことを決め、以降9月25日(学習会開催のため金曜日)まで毎週行っています。ピースパレードの他に軽トラパレード(11台参加)や8月30日の一斉行動等、毎回80名前後の参加で意思表示を行っています。その他、パレードは許可申請に費用がかかるため、歩道を任意で歩くウォークを散発的に10名前後で行っています。

7月に入り、がぜん戦争法案をめぐる動きが緊迫度を増してきました。危機感を持った私たち夫婦は、二人でもできる意思表示を行うことにし、7月11日から昼の2時間、一関市内最大の交差点、国道4号線道路際で、シッティングを始めました。5脚の椅子に5本のポールを括り付け、ポールには、「ストップ！戦争法案」、「若者を戦場に送るな!」、「辺野古新基地反対!」等の幟を結び、同様の立て看板を持ち、通る車や歩行者に手を振る、夫婦二人のアピール行

動です。やってみると、思わぬ反応がありました。2日目です。子ども連れの30代の女性が、「弟が、自衛隊に行っています。心配で、心配で。頑張ってください」と、冷えたペットボトルのお茶を差し入れてくれました。思わず「弟よ、君死にたまふことなかれ」(与謝野晶子)が、頭を横切りました。

先週迄で20回行っていきますが、2千台を超える車、400人を超える歩行者と手を振りあい、励ましあえたことは、良かったと思っています。

## 子どもたちにとうてい渡せない

### 藤沢教育委員会

### 育鵬社教科書をまた採択

藤沢市教育委員会は、2016年度から使用する中学校社会科の歴史と公民で、育鵬社の採択を強引に決めた。現場の中学校の教員たちが、まったく希望していなかった育鵬社の教科書を4年間も使わせ、押しつけたにもかかわらず、今回も教員たちからの希望は、皆無に等しいものだった。これこそ、育鵬社は子どもたちにはふさわしくない、使えない、という現場からの思いの強さそのものである。教育委員会は、5万4千筆以上の署名さえ一切耳を貸さなかった。

<各教育委員の推薦した教科書>

井上委員(日大教授)～育鵬社

関野委員(商工会議所、青年会議所)～育鵬社

小竹委員(医師会)～育鵬社、

阪井委員(保育園園長、PTA関係)～育鵬社

吉田教育長(教員)～東京書籍

今後は

- ①教育的論議なく、学校現場の声を無視した、一方的な採択に対して、理由を明らかにさせる。
- ②学校現場の声を尊重する、というはっきりとした採択制度に変えさせる。
- ③教育委員や教育委員会との懇談を求めて、採択資料、意見書、調査書などの集約など採択に関する公開性を高めさせる。
- ④現場で希望のもっと多かった歴史・公民の教科書を、公費で購入する大阪市などの例を検討し、その可能性をさぐる。

⑤現場の声を尊重できる教育委員の任命を求めていく。

採択はされたけれど、多くの市民との運動は確実に前進している。あらゆる方面の方々とつながって育鵬社をもう手渡すことのない平和で安心して学べる学校にしたい。

(M)

## 「腰越・憲法9条の会」 10周年記念講演会



第1部は、小野強さんによるコカリナの演奏。「青い空は」で、作詞者がなんと小森陽一さんのお母様で、詩人の小森香子(きょうこ)さんです。次いで「コンドルは飛んでゆく(エルコンドル パサー)」、アンデスの代表的フォルクローレで澄んだ音色に会場は水を打ったように、、、

2部はメインの講演。講演者は、「九条の会」の事務局長で東京大学大学院教授(日本近代文学)の「あの」小森陽一さん。

全国7,500の9条の会の会員の中では多くの方が少なくとも名前だけにご存知の逸材です。よくこの地に呼べたものです。主催者の苦勞がしのべれます。参加者は170人ほど、サスガ。講演のタイトルは「共同の力と追いつめられる安倍政権」。今打ちひしがれている私たちにとっては、大変明るい展望を開いてくれる話でした。手ぶり身振り、踊るように話す方です。

今後大切なことは、来夏の参院選挙で自民・公明その他3党の議員を落選させること。まずこれに向かってこの藤沢でできることをやってゆくことが大切、と感じました。(上浦孝彦)

## ふじさわ・不戦のちかい 平和行動 サンパール広場で宣伝行動 80人参加

9月12日、約80人の参加で、13人がマイクアピールをしました。

抗議行動(サンパール)は、7/4 7/13 7/18 8/15 8/25 に続いて6回目です。

今回も、佐江衆一さん(作家・80才)の戦争体験談。夏休みに開催した「親子で聴こう戦争体験」の報告、訴える言葉に力がありました。ブルーのTシャツは、「止めよう!辺野古埋立て 9.12国会包囲行動に連帯して。」

芝さん(86才)も、夏休みに体験談を語った1人です。軍需品を作らされていた女学校時代、「美しく死ぬ」ことしか考えられなかったと。

市民と市議たちのリレートークに、通りがかりの若者たちが反応して、マイクに近寄って賛同の意を發してくれたりしました。

(不戦のちかいウェブサイトより)

## 安全保障関連法案は廃案に!

戦争法案に反対し 廃案を求める 藤沢市議会有志の会

### 藤沢市議会有志の会発足



「戦争法案に反対し、廃案を求める藤沢市議会有志の会」(藤沢市議13人&元市議8人計21人)連名で声明を發表し、9月13日サンパール広場で街頭宣伝しました。

藤沢市議会では6月議会と9月議会で、市民から出されていた「廃案に」「慎重審議」などの請願や陳情はすべて不採択、市民の憲法守りたいという願う当たり前の声を通らなかった。国会情勢が緊迫している中で、緊急に現職議員を中心に「有志の会」をつくり共同した取り組みをして行きたいとしている。

### 一有志の会参加議員一

<現職議員> 13人

かわせみクラブ~柳田秀憲、竹村雅夫、大矢徹、脇礼子、永井謙、酒井信孝、清水竜太郎  
日本共産党~柳沢潤次、土屋俊則、山内幹郎  
味村耕太郎

アクティブ藤沢~原田伴子

藤沢市民と歩む会~西智

<元議員>17人(当初8名がその後9名参加)

木村栄子、植木裕子、古橋宏造、高橋八一、西尾まつ枝、今村信也、高松みどり、鈴木とも子、原田タケル、小野孝一、柳あき子、西條節子、真野喜美子、大山正雄、野副妙子、藤谷まさ男、加藤なを子

## =告知板=

### <秋の学習会>

日時 11月28日(土)14時~

場所 藤沢市民会館第2展示ホール

参加費 500円 チケットあり

テーマ「日本は戦争するのか、

集団的自衛権と自衛隊」

講師 半田滋さん(東京新聞編集論説委員)

経歴:1955年栃木県生まれ。東京新聞編集局社会部記者を経て07年7月より編集論説委員。

### <秋の一斉チラシまき>

日時 11月13日(金)3:00~

配付地域 藤沢本町駅周辺地域

### <9の日行動>

10月9日 13:30~藤沢サンパール広場

11月9日 13:30~ //

12月9日 13:30~ //

### <スタンディング行動>

10月7日 13:30~藤沢サンパール広場

10月19日 15:00~サンパール広場

### <不戦のちかい平和行動>

10月12日 14:00~藤沢サンパール広場

12月8日 13:00~ //

### <九条の会世話人会義>

10月29日 13:30~推進センター

11月28日 18:30~ //

12月18日 15:00~ //

事務局・世話人合同会議